

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	市財政運営管理業務	会計	一般会計	事業No.	26	施策順No.	94-001
		事業種別	政策・その他	予算科目	0予算事業		
政策	9 市民と共に進める行政経営	課等名			財政課		
施策	94 効率的、効果的な行政運営	事業期間	開始	終了			

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	飯田市一般会計						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	早期健全化団体とならないよう、持続可能な健全財政を維持する							
	対象をどう変えるか	健全化判断比率(4指標)全てが健全化基準を下回る状態を維持する。維持している・・・1 維持できない・・・0	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績		23年度目標
		注)財政健全化法施行に伴いH21から成果指標を改正							A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	期間中、健全化判断比率における健全化基準を下回る状態を維持することができた。								

2 手段(具体的な取組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	飯田市の財政運営の全般に関する業務 ・予算編成及び予算公表 ・決算統計及び決算状況の公表 ・一般会計及び各特別会計の総合的な管理(予算執行方針作成) ・交付税の算定、起債借入償還等、財政課所管の歳入歳出管理 ・財政状況の分析、財政見通しの作成及び公表		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 予算編成及び予算公表(一般会計当初予算41,240百万円、特別会計当初予算40,486百万円) (1)当初予算編成方針作成 (2)予算編成(当初・補正)及び公表 2 決算統計及び決算状況の公表 3 一般会計及び各特別会計の総合的な管理(予算執行方針作成) 4 交付税の算定、起債借入償還等、財政課所管の歳入歳出管理 5 財政状況の分析(「公会計改革業務(別シート)」により得られた成果を活用した分析を含む) 6 財政見通しの作成	1(1)予算編成方針 1(2)予算概要の公表 2 決算概要の公表 3 執行方針作成 4 歳入歳出管理 5 財政分析作成 6 財政見通し作成	1(1) 1式 1(2) 1式 2 2回 3 1式 4 1式 5 1式 6 3回
23年度実施計画	1 予算編成及び予算公表(一般会計当初予算42,430百万円、特別会計当初予算43,726百万円) (1)当初予算編成方針作成 (2)予算編成(当初・補正)及び公表 2 決算統計及び決算状況の公表 3 一般会計及び各特別会計の総合的な管理(予算執行方針作成) 4 交付税の算定、起債借入償還等、財政課所管の歳入歳出管理 5 財政状況の分析(「公会計改革業務(別シート)」により得られた成果を活用した分析を含む) 6 財政見通しの作成	1(1)予算編成方針 1(2)予算概要の公表 2 決算概要の公表 3 執行方針作成 4 歳入歳出管理 5 財政分析作成 6 財政見通し作成	1(1) 1式 1(2) 1式 2 2回 3 1式 4 1式 5 1式 6 3回

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金 県支出金 起債 その他 一般財源					
	計(A)		0	0	0	
	正規職員所要時間			12,000		
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)			42,912		
	トータルコスト A+B			42,912		

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・議会各会派から市政全般にわたり、様々な予算要望がある。</li> <li>・基本構想基本計画推進委員会から「予算を使い切ることではなく、工夫して残すことを評価すべき」(H20)、「行政のコストの問題を市民にわかり易く説明することが大切」(H20)、「財政運営に努力していただいている」(H21)という意見あり。</li> <li>・市議会一般質問において、予算・決算・財務諸表等に関して市民に分かりやすい広報に努めるよう提言あり。(H21)</li> </ul>
---

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市の行財政がムリ、ムダ、ムラがなく運営される	施策の成果指標又はムトス指標	財政規模(一般会計)400億円 地方債残高 一般400億円 特会600億円
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	健全財政を維持することは上位施策の目的の中核であり、予算編成、予算執行を通じて上位施策の目標達成に深く関係している。 ・事務事業は成果指標を達成しているが、上位施策の目標は達成が困難な状況。(上位施策の成果指標の、一般会計財政規模と一般会計地方債残高は、国政の影響を大きく受けたことにより達成困難)		
	後期に向けた課題	上位施策に貢献するため、引き続き健全財政を維持すること。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	毎年度、財政見通しを策定、それに基づいた予算編成とすることで、健全財政を維持してきた。		
	後期に向けた課題	健全財政を維持するため、後期基本構想期間における主要事業計画と財政見通しの整合性が必要であり、その手法が課題となることが想定される。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	ゼロ予算事業であり、コストは人件費である。コスト削減のため主に予算編成作業の効率化を意図した。しかし、毎年度、国の制度変更などへの対応が発生し、全体として時間短縮はできなかった。		
	後期に向けた課題	引き続き、時間短縮の取組が課題である。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	市の内部事務のため該当なし		
	後期に向けた課題	該当なし		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	市の内部事務のため該当なし		
	後期に向けた課題	該当なし		
全体を通じて	4年間の振り返り	成果指標である健全化基準を下回ることは充分達成した。		
	後期に向けた課題	財政運営と、後期基本計画との整合性を図ることが最も必要。また、これまで成果指標は目標を達成しているため、新たな指標の検討が必要。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--